修正後（委員会後）

＜本編（P.6-210）＞

表 6.3.2-21　高山ダムの下流河川・ダム湖周辺・流入河川で確認された両生類の経年変化

科名	和名	生息環境区分			生息場所				平成5年度［確認の有無］	平成10年度［全域個体数］	平成15年度での［確認個体数／地区］			平成23年度での［確認個体数／地区］			令和3年度での［確認個体数／地区］		
		源流の両生類	細流の両生類	氾濫原の両生類	成体			産卵場所	[redacted]	[redacted]	[redacted]			[redacted]			[redacted]		
サンショウウオ科	ヤマトサンショウウオ		○			地表		水中にある木の枝や落葉や草		2									
イモリ科	アカハライモリ		○				水中	水中の草や枯葉	○	14		1							
アオガエル科	カジカガエル	○			樹上	地表		渓流中の岩石や瀬の転石	○										
	シュレーゲルアオガエル		○		樹上	地表		池沼周辺の土中	○	265		9	10		1		1	3	
	モリアオガエル		○		樹上	地表		池沼周辺の樹木の枝先							1		1	59	
ヒキガエル科	ニホンヒキガエル		○			地表		緩やかに流れる湿地や山道の水たまり	○					1	1			1	7
アマガエル科	ニホンアマガエル		○		樹上	地表		里山の沼や緩やかに流れる湿地	○	900		12	50	1	2			3	
アカガエル科	タゴガエル	○				地表		渓流沿いの伏流水、沢の岩や落葉の下	○	2				1	3	1	15	16	3
	ヤマアカガエル		○			地表		河川や沢の弱い流れのある止水	○	1269		2	1		1	2		1	2
	ニホンアカガエル		○			地表		丘陵地の弱い流れのある湿地		143					1			1	
	ツチガエル		○			地表		河川の水草や水中の枝	○						1	1			
	トノサマガエル			○		地表		池や湿地や河川の止水	○	327		1	10	1	2	1	1	5	1
	ウシガエル			○		地表	（水中）	平地の河川やダム湖の水面	○	23	1	1		5			1	7	

もともと、伏流水の流れる礫の隙間、渓流の淵や水たまり、渓流の岩の下に産卵し、
岩の下や空隙の多い石礫間にて幼生が生息する種である。
確認されれば、沢地形や渓流において、樹林に覆われた伏流水もしくは流れの速い渓流が存在しており、
河川において、河床に空隙のある石礫が多い。

もともと、緩やかな流れのある水域の水中にて幼生が生息する種である。
多く確認されれば、山腹の林床において、遅い流れのある水域が存在しており、
河川においては、流れの多くが植生に接している緩流となっている。

もともと、氾濫原の代償として水田に生息する種である。
確認されれば、ダム湖岸において、水位操作がたまたま合い氾濫原の代償となっている可能性があり、
河川においては、河道に止水域が多くある。

確認個体数 ； 捕獲或いは目撃した成体、幼生、孵化幼生は一個体を、目撃した卵塊は一塊を、
鳴き声は発生源一箇所を「確認個体数1」として集計した数値である。
複数の調査地区分を合わせて、地区数で割り、単位を[確認個体数／地区]とした。
なお少数点以下を四捨五入し、0＜n＜0.5は1とした。

参考 ；「河川生態学」川那部浩哉、水野信彦 監修、田口勇輝 他執筆、P144～P145、講談社
「野外観察のための日本産両生類図鑑第3版」関慎太郎 著、松井正文 監修、緑書房
「決定版 日本の両生爬虫類」内山りゅう 前田憲男 他著、平凡社
「カエル・サンショウウオ・イモリのオタマジャクシハンドブック」松井正文 解説、関慎太郎 写真、文一総合出版

修正前（委員会時）

＜本編（P.6-210）＞

表 6.3.2-21　高山ダムの下流河川・ダム湖周辺・流入河川で確認された両生類の経年変化

科名	和名	生息環境区分			生息場所				生息地域	5年度［確認の有無］	10年度［全域個体数］	平成15年度での［確認個体数／地区］			平成23年度での［確認個体数／地区］			令和3年度での［確認個体数／地区］		
		源流の両生類	細流の両生類	氾濫原の両生類	成体			産卵場所	淀川水系	[redacted]	[redacted]	[redacted]			[redacted]			[redacted]		
サンショウウオ科	マホロバサンショウウオ	○				地表		日光の射さない石の下、伏流水	●											
	ヤマトサンショウウオ		○			地表		水中にある木の枝や落葉や草	●		2									
オオサンショウウオ科	オオサンショウウオ	○					水中	水が入る川岸の横穴	●											
イモリ科	アカハライモリ		○				水中	水中の草や枯葉	●	○	14		1							
アオガエル科	カジカガエル	○			樹上	地表		渓流中の岩石や瀬の転石	●	○										
	シュレーゲルアオガエル		○		樹上	地表		池沼周辺の土中	●	○	265		9	10		1		1	3	
	モリアオガエル		○		樹上	地表		池沼周辺の樹木の枝先	●							1		1	59	
ヒキガエル科	ニホンヒキガエル		○			地表		緩やかに流れる湿地や山道の水たまり	●	○					1	1			1	7
	アズマヒキガエル		○			地表		緩やかに流れる湿地や山道の水たまり	●											
アマガエル科	ニホンアマガエル		○		樹上	地表		里山の沼や緩やかに流れる湿地	●	○	900		12	50	1	2			3	
アカガエル科	タゴガエル	○				地表		渓流沿いの伏流水、沢の岩や落葉の下	●	○	2				1	3	1	15	16	3
	ヤマアカガエル		○			地表		河川や沢の弱い流れのある止水	●	○	1269		2	1		1	2		1	2
	ニホンアカガエル		○			地表		丘陵地の弱い流れのある湿地	●		143					1			1	
	ツチガエル		○			地表		河川の水草や水中の枝	●	○						1	1			
	トノサマガエル			○		地表		池や湿地や河川の止水	●	○	327		1	10	1	2	1	1	5	1
	ウシガエル			○		地表	（水中）	平地の河川やダム湖の水面	●	○	23	1	1		5			1	7	
ヌマガエル科	ヌマガエル			○		地表		沼の浅い部分、雨の水たまり	●											

もともと、伏流水の流れる礫の隙間、渓流の淵や水たまり、渓流の岩の下に産卵し、
岩の下や空隙の多い石礫間にて幼生が生息する種である。
確認されれば、沢地形や渓流において、樹林に覆われた伏流水もしくは流れの速い渓流が存在しており、
河川において、河床に空隙のある石礫が多い。

もともと、緩やかな流れのある水域の水中にて幼生が生息する種である。
多く確認されれば、山腹の林床において、遅い流れのある水域が存在しており、
河川においては、流れの多くが植生に接している緩流となっている。

もともと、氾濫原の代償として水田に生息する種である。
確認されれば、ダム湖岸において、水位操作がたまたま合い氾濫原の代償となっている可能性があり、
河川においては、河道に止水域が多くある。

生息地域；「●」は、淀川水系の水機構ダムのいずれかで確認された種

確認個体数 ； 捕獲或いは目撃した成体、幼生、孵化幼生は一個体を、目撃した卵塊は一塊を、
鳴き声は発生源一箇所を「確認個体数1」として集計した数値である。
複数の調査地区分を合わせて、地区数で割り、単位を[確認個体数／地区]とした。
なお少数点以下を四捨五入し、0＜n＜0.5は1とした。

参考 ；「河川生態学」川那部浩哉、水野信彦 監修、田口勇輝 他執筆、P144～P145、講談社
「野外観察のための日本産両生類図鑑第3版」関慎太郎 著、松井正文 監修、緑書房
「決定版 日本の両生爬虫類」内山りゅう 前田憲男 他著、平凡社
「カエル・サンショウウオ・イモリのオタマジャクシハンドブック」松井正文 解説、関慎太郎 写真、文一総合出版

調査地区 ； 下流河川 ～ 淀高下1
（令和3年度） ダム湖岸及び周辺 ～ 淀高湖3, 淀高湖4, 淀高周2, 淀高周3, 淀高周5, 淀高周1, 淀高周4
流入河川 ～ 淀高入2-1